

今月の御教え

いろいろの神や仏に頼んで、おかげがあると言うけれども、おかげのできるもとは天地金乃神のほかはない。

……「天地は語る」第二十条……

解説 この御教えは、他の神仏を否定するような意味では決してありません。

教祖様は参拝者の『弘法大師と、黒任教祖とでは、どちらが偉いのですか?』との問いに『どちらも偉い人であります』と答え、又、『どの宗教も良い』『たとえ藪神、小神たりとも粗末にしてはならぬ』とも教えられ、あらゆる宗教、宗祖を敬っておられます。

教祖様は幼少期から、あらゆるお宮や社に鎮まる神様や、お寺の仏様を敬い尊ばれ、厚い信心を貫き通される中に、遂に、それらの神様、仏様をも在らしめている。廣大無辺の働き、即ち、大天地に在って絶えず遍く我々人間を見守って下さっている天地の親神様に出遭われたのであります。

故に、神様や仏様に一心に縋れば、おかげは頂ける、そしてその大元は、天地万物を生かし育て下さっている天地の親神様、即ち天地金乃神様であることを明らかに示されたのがこの御理解であります。